

【大 賞】

北海道 「水土里ネット栗山」 農業振興ネットワーク

I 水土里ネットの概要

1. 水土里ネットの概要

・水土里ネット名：ふりがな 栗山くりやま

・役職員数：役員 10 名、職員：常勤 8 名、非常勤 3 名

・組合員数： 334 名

・受益面積： 3403.7 ha（水田 3403.7 ha）

2. 地域の特徴

栗山町は、北海道の南西部に位置し、北は岩見沢市と接する屈足山系と、東は夕張山系につづく緩やかな丘陵地帯で夕張市と接している。明治21年に宮城県仙台藩士泉麟太郎公（初代水利・土功組合長）を中心に入植し、法的援助が無い時代から水利組合を立ち上げ、明治26年には札幌以北で初めての水田の試作を成功させた。その後道内の先陣をきって明治35年、道内第1号認可の土功組合を設立し、水田農業の礎を築いた。また当町は札幌市の都心部、千歳空港から約40kmの距離にあり主要都市と近接していることから道央の食料供給基地の役割を担う「都市近郊型の農業の町」として発展している。生産される農産物は、水稻・麦・大豆・種馬鈴薯・玉葱などの主力作物に加え、かぼちゃや長葱など多種多様である。中でも種馬鈴薯の生産面積は日本一を誇っており、また血糖値を抑える成分が多く含まれた玉葱「さらさらレッド」は栗山町のみで生産されている。



明治30年4月竣工の夕張川頭首工及び導水門 歴史的建造物の保全・修復にも積極的に取り組んでいる ケルセチンを多く含んだ「さらさらレッド」

本地域は、現在実施中の国営かんがい排水事業にて平成27年に供用開始となった夕張シューパロダムを水源としており、夕張川を経て川端ダムより取水を行っている。以前は水不足により節水を余儀なくされていたが、ダムの完成により水不足が解消され現在は潤沢な利水が可能となっている。また当水土里ネットでは、組合員の管理省力化や高収益、高生産性農業を推進するため、道営基盤整備事業を実施し、ほ場の大区画化と水稻直播や転作作物の干ばつ等に利用できる集中管理孔による地下かんがいの整備を進めている。



全国で2番目の湛水面積を誇る夕張シューパロダム

道営事業により約2haに区画拡大されたほ場

大豆畑への発芽促進のため地下かんがいを利用

Ⅱ 運動の背景と基本理念・目標

1. 運動の背景

当地域でも農業者の高齢化や後継者不足の進行により、近年、特に農家戸数の減少が顕著となっており、農業者だけで農地や農業水利施設を健全な形で維持・保全していくことが大きな課題となっていた。このような中で、農地や農業水利施設が地域の財産であり、多面的機能を有していることについて非農業者にも理解を促し、地域が一体となってこれらを維持・保全していくためのPRが必要となり、関係農業団体や自治会、学校など多様な組織と連携を図るべく「新たな水土里ネット」として一歩踏み出す必要があった。

2. 運動の基本理念・目標

スローガン：地域の財産、「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承する。

（内部運動）～自己確認・自己変革の取り組み～

○水土里ネット自身が、「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識

○地域の要請に対応し水土里ネットに期待される新たな役割・機能を担うための共通認識を醸成

（外部運動）～道民・国民への理解の醸成～

○農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の地域資源保全の重要性について、地域住民等の理解を醸成

○水土里ネットの果たしてきた役割、これから果たしていく新たな役割・機能について、地域住民等の理解を醸成

<新たな水土里ネットの創造>

○地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織として発展

○地域との多様な連携のもとに農地・農業用水等の地域資源の維持・保全を積極的に担っていく組織として発展

Ⅲ 対象となる21創造運動の活動

■No.1 活動名 地域農業の振興

①開始時期：平成16年度～ ②開催数：／年 ③実施形態：☒主催 ☐共催 ☐協力 ☐その他（ ）

④連携団体：団体名 栗山町、JAそらち南、栗山町農業委員会、南空知農業共済組合等

⑤活動経費： — 千円 内訳 自主財源 — 千円

⑥活動内容

平成16年に、農業者の高齢化や担い手不足、農地の流動化など地域が抱える問題の解決に向け、行政や水土里ネットも参画した中で農業委員会などの関係団体と連携し、財団法人栗山町農業振興公社（現在は一般財団法人栗山町農業振興公社）を設立し、農地保有合理化事業（農地転貸等）、担い手育成事業を主に事業展開している。その中で、5年毎に各地域の農業者の代表である農業推進委員とともに「栗山町農業ルネッサンス（振興計画）」を策定し、「地域の農業の振興方向と具体的な戦略プラン（助成事業）」を実施しており、現在は3期目で「くりやまブランドの推進」、「地域を担う多様な人材の育成」、「農地有効利用と土づくりで農地を守る」を柱として農業・農村の振興を図っている。水土里ネットも公社組織に参画し、理事長が評議委員、参事が理事を務め基盤整備事業を推進、さらに公社に担当職員を派遣し、普段の業務では関わりの少ない新規就農や後継者育成に係る業務などに携わることにより、幅広い農業振興施策推進の一翼を担っている。

⑦取り組みの工夫

国営、道営の農業農村整備事業を活用した整備を進めるため、振興計画の中に水土里ネットの役割の一つである「土地改良事業の推進」を明記し、農業者、関係機関一体となった推進体制を構築している。また、「生産基盤整備自力施工助成事業」として、農業者が自力施工により行う簡易な暗渠排水や区画拡大にも水土里ネットの業務を生かし施工技術などの支援を行っている。

⑧取り組みの成果

公社組織に参画することにより、「従来の土地改良区」の枠にとどまることなく活動し、組合員をはじめ畑地帯の農業者からも「水土里ネット」への信頼と評価を得ている。職員も行政や関係団体、業種を超えた人たちとの交流や多様な業務に携わることにより農業・農村振興への視野も広がり、創造運動はもとより組合員へのサービス向上に対する意識改革にも繋がり、日常における業務の質の向上が図られている。また、公社では人材育成として「農家の嫁として、日々如何に楽しむか」などをテーマに「栗山農業女性塾」の開催や、地域のトップリーダー育成として「栗山農業未来塾」の活動をしている。JAでも新規就農者や農業後継者らも含め営農に必要な基本的知識の習得を目指し、「営農いろは塾」を開催しており、水土里ネットも連携し「水土里ネットの役割」や「基盤整備の必要性」について講義し、新規就農者や後継者に対し賦課金等の負担も含め理解促進を図っている。そのほか、栗山産ゆめぴりかを日本ハムファイターズの栗山監督へ贈呈するなど、まちを挙げて「くりやまブランドの推進」を行っている。

⑨活動状況写真



栗山ブランド米を生産者から栗山監督へ贈呈し PR



くりやま農業女性塾



「営農いろは塾」水土里ネット職員が講義

■No.2 活動名 内部体制強化及び意識改革

①開始時期：平成14年度～ ②開催数：3回／年

③実施形態：☒主催 ☐共催 ☐協力 ☐その他（ ）

④連携団体：団体名 札幌開発建設部、北海道空知総合振興局、栗山町、由仁町、水土里ネットほっかい、ながめま、由仁

⑤活動経費：140千円 内訳 自主財源 140千円

⑥活動内容

内部運動として、役職員自らが積極的にセミナーや研修会に参加しているほか、総代会や用排水調整委員会において組合員へ定期的に21創造運動の活動内容を報告し、経費負担への理解や、運動への取り組み意欲の向上と意識改革を図っている。総代や用排水調整委員を対象に農業水利施設や土地改良事業の視察見学会を開催し、現在行われている活動に理解を得ているとともに、関連事業へのさらなる積極的な参加を促している。

⑦取り組みの工夫

「水土里ネット」の役割や歴史、活動内容を周知するため、ホームページを開設したことで、町内にとらわれず都市部への情報発信も容易になり、PRの対象が大幅に広がった結果、活動に対する活発な意見が増え、課題の検討などに活かされている。また、近隣の水土里ネットなど関係機関・団体と連携を強化するため、定期的に情報交換を行い、今後の活動やイベント内容の向上に役立てている。

⑧取り組みの成果

継続した啓発により役職員や組合員間では活動に対する理解や参画が増え、事業の円滑な推進に寄与している。さらに、意識の向上により多面的機能支払の活動組織で自主的に勉強会を開催し合意形成を図るなど、組合員だけでなく非農業者も巻き込んだ地域活性化に向けた活動となっている。

⑨参加状況（延べ数）

年度	参加者数							参画団体数	参加者数計
	水土里ネット				一般		スタッフ数 (内数)	行政 土連等	
	役員	職員	組合員	行政	小中高生	その他			
25	20人	14人	22人	8人			14人	7団体	64人
26	20人	14人	35人	9人			14人	7団体	78人
27	20人	15人	41人	12人			15人	7団体	88人

⑩活動状況写真



総対象の施設見学会



本区ホームページを開設



関係機関と連携強化（ネットワーク化）

■No.3 活動名 学校教育との連携による総合学習（田んぼの学校、水利施設見学会）

①開始時期：平成15年度～ ②開催数：6回／年

③実施形態：☒主催 ☐共催 ☒協力 ☐その他（ ）

④連携団体：団体名 北海道開発局（札幌南農業事務所）、北海道空知総合振興局南部耕地出張所、栗山ウォーターリフォームの会、栗山町、ハサンベツの会等

⑤活動経費：50千円 内訳 補助金 50千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥活動内容

関係機関・団体と協力し、町内2つの小学校と連携した環境教育「田んぼの学校」開校、田植え・稲刈り・炊飯学習までの一環した体験学習を通じて農業と触れ合う機会を提供し、子ども達の豊かな感性を育み農業・農村を身近なものとして理解してもらう。また「田んぼの水はどこからくるの」をテーマとして、用水路の水源をたどり、ダムから末端水路まで各水利施設を実際に見学しながら役割を説明する学習会を行っている。

⑦取り組みの工夫

「田んぼの学校」では地域の農業者との繋がりを強め、また、子どもが関心を持ちやすいよう水田の生き物を捕獲しての生育観察など楽しみながら自然や農業と触れ合えるよう工夫を行っている。水利施設見学会では小学生が理解しやすいよう農業や水利施設に関してクイズ形式を取り入れ説明をしている。

⑧取り組みの成果

環境教育や施設見学を行うことで毎日食べているお米がどのようにしてできるかや、身近にある用水路などの施設との結びつきを学習することで、水利施設の重要性が認識され、また、教育の支援を行っていくことで小学校など関係機関との密接な関わりや信頼関係が構築されており、今後も地域一体となった取組として継続していく。

⑨参加状況（延べ数）

年度	参加者数							参画団体数	参加者数計
	水土里ネット				一般		スタッフ数 (内数)	行政 土連等	
	役員	職員	組合員	行政	小中高生	その他			
25		12人	5人	31人	105人		17人	6団体	153人
26		14人	5人	29人	99人		19人	6団体	147人
27		14人	5人	33人	111人		19人	6団体	163人

⑩活動状況写真



近所の田んぼで田植え



田んぼの生育観察



施設見学する児童

■No.4 活動名 イベントでの普及啓発活動（パネル展・農産物販売）

①開始時期：平成14年度～ ②開催数：4回／年

③実施形態：□主催 □共催 ☒協力 ☒その他（参加 ）

④連携団体：団体名 北海道開発局（札幌南農業事務所）、JAそらち南、栗山JCマルシェ
担当実行委員会

⑤活動経費：130千円 内訳 補助金 100千円（事業名：国営造成施設管理体制事業）
自主財源 30千円

⑥活動内容

毎年、栗山町で開催される「くりやま夏まつり」「くりやまマルシェ」「JAそらち南農業祭」などの地元イベントや、北海道庁赤レンガで開催される「農業・農村フェスタ」で主催団体や北海道開発局と連携し、水と農業の大切さや基盤整備事業の必要性、水土里ネットの役割・歴史をパネルにて紹介している。また地元のPRとして農産物や加工品の紹介、販売を行っている。

⑦取り組みの工夫

水土里ネットの歴史的施設や農業農村整備関連のパネルを展示し、それぞれ紹介していくと共に、パンフレットや独自に作成した当水土里ネット管理施設の「杵臼ダムカード」を来場者へ配布するなど、PR活動を行っている。また、アンケート調査により現在の「水土里ネット」の認知度や多面的な機能を有する農地や農業水利施設の役割などを確認している。

⑧取り組みの成果

地元イベントの参加者は、農業関係者はもちろんのこと非農業者の町内住民も多く、地域の基幹産業である農業や農業水利施設がいかに身近な存在かを認知してもらう良い機会となっている。

また、継続的なイベント参加によりアンケート調査結果では農業や「水土里ネット」に対する理解が深まっており、認知度や関心が回数を重ねるごとに高まってきている。

⑨参加状況（延べ数）

年度	参加者数							参画団体数	参加者数計 (全体来場者数)
	水土里ネット				一般		スタッフ数 (内数)	行政 士連等	
	役員	職員	組合員	行政	小中高生	その他			
25	2人	19人	0人	10人			29人	4団体	19,000人
26	2人	21人	2人	10人			33人	4団体	26,000人
27	3人	20人	2人	10人			32人	4団体	25,000人

⑩活動状況写真



マルシェでは「さらさらレッド」も販売



パネルを展示しアンケート調査



独自で作成の杵臼ダムカード

Ⅳ 多面的機能支払、中山間地域等直接支払への関わり

①実施地区数 1 地区（24 支部） ②実施面積 4,984 ha

③活動組織の構成

農業者、自治会、町内会、婦人会、老人会、育成会、JAそらち南、水土里ネット栗山等自治会単位とした24支部の活動組織があり、全町の活動組織が広域連携をした「栗山町多面的機能推進協議会」により1地区として活動している。

④活動内容

地域住民（非農業者）の参画を得た活動は、道路に隣接する用水路敷地などへの植栽や清掃活動など環境保全活動が中心となっている。これらの共同活動を通じて、農地・農業用水等の資源の持つ多面的機能の大切さへの理解にも繋がっており、農業・農村地域の美しいまちづくりに向けた意識の一層の醸成が図られることを期待している。



⑤水土里ネットの関わり

支部活動組織の代表や役員は、水土里ネットの下部組織である用排水調整委員や総代が多く務め、活動計画の策定や非農業者との共同活動の取り組みの調整などを行うほか、水土里ネットの事務局が全体資金計画の適正な執行のための指導等を行っている。

⑥ 21 創造運動への波及効果

この事業によって非農業者を含めた地域一体となった活動の組織化が図られ、各種活動を通じて地域で守っていくべき施設の重要性や地域全体で維持・保全していこうという合意形成が図られ、非農業者の農業・農村の多面的機能の大切さに対する理解や参加意識が醸成された。それにより農業水利施設の維持・保全活動にも参画し地域の財産として保全する重要性の理解が深まった。



V 運動全体の成果と今後の展望

当地域も農家戸数が年々減り続け、農業者一人当たりの守っていく農地や農業水利施設の管理も増大している。そのような中で当水土里ネットの創造運動活動や地域保全会の組織化も相まって、農業者のみならず非農業者にも農地や農業水利施設など地域の財産として保全する大切さの理解が深まってきている。

また、「水土里ネットの役割」についても、町内外のパネル展や小学校の総合学習などの外部運動を通じて認知度や理解がアンケート結果を見ても活動当初より確実に増えてきている。しかし、用水路をはじめとする各農業水利施設の多面的機能や水土里ネットの「役割」は理解されてきているが、実際に水土里ネットの役職員がどのような「仕事（作業）」を行っているかは、まだPR不足を感じており、視点や見せ方を工夫しながら今後も現在の普及啓発活動を継続し、さらにホームページや広報を活用しながら広く情報を発信していきたい。

地域農業の振興については、当町の農業振興を担っている公社のメイン事業のひとつである農地の流動化を進める上でも「地域一体となった農地整備事業の必要性」を水土里ネット役職員が農業者や行政に対し理解を求めながら推進してきた。結果として、道営農地整備事業の新規地区として次々と立ち上がり、現在は約60ha～280haを受益とする7地区、合計で1000ha程の基盤整備事業が実施され、管理省力化や高収益、高生産性農業が進み、農地の流動化や地域農業の発展に繋がっている。

当水土里ネットでは、北海道内認可第1号の土功組合として、百年を超える歴史を経て地域とともに歩んできた。「地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ引き継ぐ」を基本理念に掲げて創造運動を進めてきたが、地域に『人』（農業者）がいなければ、守り引き継ぐのは不可能であるということを念頭に、次世代が減少している昨今の農村ではあるが、歴史や伝統はしっかりと引き継ぎつつも「時代に応じたニーズや期待に応えられる水土里ネット」で在り続けるため、今後も創造運動や地域の農業振興を継続的に行い農村の活性化を図っていきたい。



川端ダムでの通水式の様子



役職員OB会による創立80年記念碑の清掃



現在基盤整備実施中の杵臼地域